



歯周病が全身に及ぼす影響

歯周病は、成人の約8割以上の方がかかっている病気です。原因は歯垢や歯石に存在する細菌とそれらが作り出す物質（毒素）によるものです。しかしそれらは口の中だけにとどまらず、歯肉の毛細血管を通して心臓に送られ、全身に回ってしまいます。

また、高齢者では飲み込みがうまくいなくなったり、咳の反射が弱くなるため、口の中の細菌が気管に入っても押し出すことが出来ず、肺に入り込んでしまい抵抗力が落ちた方では重症の肺炎を起こすことがあります。これを誤嚥性肺炎といいます。

さらに歯周病は、歯周病の細菌が作り出す物質が全身に影響を及ぼすことがあります。たとえば、歯周病の細菌により産生された炎症物質がインスリンの働きを抑制するため、糖尿病が悪化します。しかし歯周病を治療することにより、血糖のコントロールが改善することがあります。

逆に糖尿病が歯周病を重症化させることはよく知られています。糖尿病は血管や神経を障害する病気であり、糖尿病により毛細血管がもろくなると歯周病の細菌に対する防御力が低下し、細菌感染を受けやすい状態となり、ますます歯周病は悪化するわけです。また、早産の可能性が歯周病を持つ妊婦では7.5倍も高まるという報告もあります。

歯周病と全身の病気には密接な関わり合いがあり、歯周病も全身の病気も両者ともに治療していく必要があります。全身の病気については健康診断でチェックできる機会がありますが、歯周病は自分で守るしかありません。全身の病気と同じように歯科でも定期検診を受け、むし歯、歯周病などのチェックをされることをお勧めします。

定期診断や
むし歯、歯周病の
チェックをしよう

Merry
Christmas

